

看護学生の基礎看護技術への関心・必要性の度合い  
と理由

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-02-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鶴田, 晴美, 中村, 昌子, 熊谷, 玲子, 吉岡, 栄子, 長谷川, 真美, TSURUTA, Haremi, NAKAMURA, Masako, KUMAGAI, Reiko, YOSHIOKA, Eiko, HASEGAWA, Naomi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.50818/00000043">https://doi.org/10.50818/00000043</a>

## 【研究報告】

## 看護学生の基礎看護技術への関心・必要性の度合いと理由

Degree of interests and necessities for basic nursing skills among nursing students  
and the reasons鶴田 晴美 中村 昌子 熊谷 玲子  
吉岡 栄子 長谷川真美Haremi TSURUTA Masako NAKAMURA Reiko KUMAGAI  
Eiko YOSHIOKA Naomi HASEGAWA

## 要 旨

本研究は、看護学生が考える基礎看護技術への関心の度合い・必要性の度合いとその理由を明らかにし、看護技術教育への示唆を得ることを目的とした。同意の得られたA看護系大学1年生103名を対象に、基礎看護学実習で経験させた日常生活援助技術（ベッドメイキング、シーツ交換、バイタルサイン測定（以下VS測定とする）、清拭、足浴など）10項目について、関心・必要性の度合いとその理由を質問紙調査した。

基礎看護技術の関心の度合いは、VS測定が最も高く、次いで体位変換、便器・尿器・オムツ交換であった。関心を高めた理由は、できるようになりたいという思いと上達の嬉しさ、実習で実施する技術であるなどが原動力となっていた。一方、必要性の度合いは、陰部洗浄、便器・尿器・オムツ交換、VS測定で高く、患者の状態判断や他者への遠慮、抵抗を伴う援助であった。生活に必要な援助であること、実習で実際場面を見学したことも学生が必要性を捉えることに大きく影響していた。

キーワード：看護学生 基礎看護技術 関心の度合い 必要性の度合い

## I. はじめに

看護は実践の科学であり、看護基礎教育課程における看護技術の教授-学習過程は、患者理解と看護援助の要である。近年の臨床看護の場では、医療の高度化、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮などにより、看護業務が多様化・複雑化している<sup>1)</sup>。患者の人権への配慮や、医療安全確保のための取り組みが強化される中、学習途上にある学生が行う看護技術の範囲や機会が限定されてきている<sup>2)</sup>。

看護技術に関する科目を担当する教員は、看護技術の基本だけでなく、めまぐるしく変化する臨床看護の現場をふまえた教授内容を精選し、社会的な影響を受け

て、年々変化する学生に応じた授業方法を工夫しつつ、教育にあたることが要求される<sup>3)</sup>。講義・演習において、どのような内容を教授し、演習で技術を指導していくかは、検討を繰り返し精選していくことが教員の課題となる。また、教員は、学生の学習の興味や関心、問題意識を高めることに加えて、看護技術習得に向けた段階的な学習支援に取り組むことが重要になる。特に臨地実習では、受け持ち患者に看護を実践するため、それまでには基本的な技術が安全・安楽・自立へ向けて実施できるような準備を整えて臨むことが倫理的にも必要となる。

看護技術の習得には看護実践の基礎となる知識と反復練習が必須であり、学生が自らの身体活動をとおした体験が不可欠となる。したがって、講義時には教材となるDVDや教員の作成した映像を用い、演習前後は課題

を提示し、自己学習を促進している。また、練習時には教員が指導にあたり具体的に技術のポイントや動作のこつなど助言し、技術習得が図れるような指導体制を設けている。しかし、課題への取り組みは、個人の姿勢が大きく影響する。

先行研究では、学生の基礎看護技術への関心や必要性や身につけたい度合いが高いほど、自己学習に取り組んでおり、度合いが低いほど取組んでいない<sup>4) 5)</sup>と報告されている。しかし、生活援助技術と診療補助技術の6項目に限定し、その他の技術に関しては明かにされていない。また、関心や必要性が高い学生は、どのような考えを持ち取り組んでいるのか、その理由については明らかにされていない。

一方、学生は学業、サークル活動、アルバイトなど活動が多忙なため、特別に技術練習へ気持ちを向けて行動することは難しいことが推察される。時間的な制約がある内で、拘束が少なく、より意識的に取り組める練習とするためには、学生がどのようなことに必要性を感じ、取り組んでいるのか生の反応を捉え活用していくことが有用と考える。

そこで、看護学生1年生の生活援助論Ⅰ・Ⅱの履修後(図1)に基礎看護技術への関心や必要性についてどのように考えているのかを調査し、学生の反応を捉えた上で看護技術習得の学習支援を検討したいと考えた。本研究の目的は、看護学生が考える基礎看護技術への関心・必要性の度合いとその理由を明らかにし、看護技術教育への示唆を得ることである。



図1 調査時期と1年次基礎看護学授業進度

## 用語の定義

・**関心**とは:「特定の事実に興味をもって注意を払うこと。ある対象に向けられている積極的・選択的な心構え、または感情」<sup>6)</sup>とある。本研究では、基礎看護学実習で経験させたい日常生活援助技術10項目という特定の技術への興味や、その技術に向けられている積極的・選択的な心構えまたは感情を示すものと定義する。

・**必要性**とは:「必要であること。またその度合い」<sup>7)</sup>。本研究での必要性とは、基礎看護学実習で経験させたい日常生活援助技術10項目のどれかを特定せず、学生がどのような理由で必要性を捉えているのかが述べられているもので、「患者にとって」「学生にとって」「看護師にとって」の全ての側面を含む。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 研究対象

研究同意の得られたA看護系大学1年生103名。  
調査期間:2014年1月末日

2. **調査内容**:無記名アンケート調査。内容は、基礎看護学実習で経験させたい日常生活援助技術(ベッドメイキング, シーツ交換, VS測定, 清拭, 足浴, 陰部洗浄, 洗髪, 便器・尿器・オムツ交換, 体位変換, 車椅子移乗・移動)の10項目とした。

1) 関心の度合いについて、関心が高い<4点>ある程度関心がある<3点>あまり関心がない<2点>全く関心がない<1点>の4段階評価とした。必要性の度合いについても同様に、とても必要<4点>から全く必要ではない<1点>の4段階評価とし、点数が高いほど必要性が高いとした。

2) 特に関心が高まった理由と必要性が高まった理由について自由記述してもらった。

### 3. 分析

データの分析には、統計ソフトSPSS19.0 for windowsを使用した。日常生活援助技術10項目の関心の度合い、必要性の度合いについて記述統計、関心と必要性の度合いは、対応のあるWilcoxon符号付き順位検定を用いて比較した(有意水準は5%未満とした)。また、特に関心が高まった理由と必要性が高まった理由は、記述内容の類似性にそって分類した。

### 4. 倫理的配慮

東都医療大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号H2507)を得て実施した。対象に文書および口頭で研究の趣旨、目的、方法、プライバシー保護、自由意思、成績には一切関係無く学生生活上の不利益のないこと、データは本研究目的以外には使用しないことなどを説明した。調査用紙の回収にあたっては、一定期日、教室後方部に回収箱を設置し、白紙

の場合も投函してもらい個人が特定できないように配慮した。また、回収箱の投函をもって研究協力の同意を得たものと判断した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 項目別に見た基礎看護技術 10 項目の関心と必要性の割合 (表 1, 表 2)

基礎看護技術 10 項目に関する関心の割合を 4 段階評定で求めた結果は、関心が高い (60%~80%), ある程度関心がある (20%~30%), あまり関心がない (3%~10%), 全く関心がない (0%~1%) であった。一方、必要性の割合は、とても必要 (60%~90%), ある程度必要 (6%~30%), あまり必要でない (2%~10%), 全く必要ない (0~1%) であった。

#### 2. 技術項目別関心の度合いと必要性の度合い (表 3, 表 4, 表 5, 図 2)

技術項目別に見た関心の度合い (表 3) は、VS 測定 3.81 (± 0.46), 体位変換 3.65 (± 0.59), 便器・尿器・オムツ交換 3.64 (± 0.61), 陰部洗浄 3.61 (± 0.61), 車

椅子移乗・移動 3.58 (± 0.55), 清拭 3.58 (± 0.63), ベッドメイキング 3.53 (± 0.67), 洗髪 3.51 (± 0.64), 足浴 3.50 (± 0.67), シーツ交換 3.40 (± 0.76) の順位であった。

一方、必要性の度合い (表 4) は、陰部洗浄 3.87 (± 0.41), 便器・尿器・オムツ交換 3.86 (± 0.42), VS 測定 3.86 (± 0.44), 清拭 3.85 (± 0.49), 体位変換 3.82 (± 0.46), 洗髪 3.69 (± 0.56), 車椅子移乗・移動 3.65 (0.56), 足浴 3.63 (± 0.64), シーツ交換 3.55 (± 0.67), ベッドメイキング 3.48 (± 0.68) の順位で、必要性の度合いが高い技術項目ほどバラツキが少なかった。

表 1 関心の度合いの割合

記述項目	(n=103) ( )内は%			
	関心が高い	ある程度関心がある	あまり関心がない	全く関心がない
ベッドメイキング	64(62.1%)	31(30.1%)	7(6.8%)	1(1.0%)
シーツ交換	56(54.4%)	34(33.0%)	11(10.7%)	2(1.9%)
バイタルサイン測定	87(84.5%)	13(12.6%)	3(2.9%)	0(0%)
清拭	67(65.0%)	30(29.1%)	5(4.9%)	1(1.0%)
足浴	61(59.2%)	32(31.1%)	10(9.7%)	0(0%)
陰部洗浄	69(67.0%)	29(28.2%)	4(3.9%)	1(1.0%)
洗髪	59(57.3%)	38(36.9%)	5(4.9%)	1(1.0%)
便器・尿器・オムツ	72(69.9%)	26(25.2%)	4(3.9%)	1(1.0%)
体位変換	73(70.9%)	24(23.3%)	6(5.8%)	0(0%)
車椅子移乗	63(61.2%)	37(35.9%)	3(2.9%)	0(0%)

表 2 必要性の度合いの割合

記述項目	(n=103) ( )内は%			
	とても必要	ある程度必要	あまり必要でない	全く必要でない
ベッドメイキング	60(58.3%)	32(31.0%)	11(10.7%)	0(0%)
シーツ交換	67(65.0%)	26(25.3%)	10(9.7%)	0(0%)
バイタルサイン測定	93(90.3%)	6(5.8%)	4(3.9%)	0(0%)
清拭	93(90.3%)	6(5.8%)	3(2.9%)	1(1.0%)
足浴	73(70.9%)	23(22.3%)	6(5.8%)	1(1.0%)
陰部洗浄	93(90.3%)	7(6.8%)	3(2.9%)	0(0%)
洗髪	75(72.8%)	25(24.3%)	2(1.9%)	1(1.0%)
便器・尿器・オムツ	92(89.3%)	8(7.8%)	3(2.9%)	0(0%)
体位変換	87(84.5%)	13(12.6%)	3(2.9%)	0(0%)
車椅子移乗	71(68.9%)	28(27.2%)	4(3.9%)	0(0%)

表3 関心の度合い

(n=103)	
項目	平均値(SD)
バイタルサイン測定	3.81(0.46)
体位変換	3.65(0.59)
便器・尿器・オムツ	3.64(0.61)
陰部洗浄	3.61(0.61)
車椅子移乗・移動	3.58(0.55)
清拭	3.58(0.63)
ベッドメイキング	3.53(0.67)
洗髪	3.51(0.64)
足浴	3.50(0.67)
シーツ交換	3.40(0.76)

表5 関心・必要性の比較

(n=103)			
技術項目	関心	必要性	P
バイタルサイン測定	3.81	3.86	n.p
体位変換	3.65	3.82	***
便器・尿器・オムツ	3.64	3.86	***
陰部洗浄	3.61	3.87	***
車椅子移乗・移動	3.58	3.65	n.p
清拭	3.58	3.85	***
ベッドメイキング	3.53	3.48	n.p
洗髪	3.51	3.69	***
足浴	3.5	3.63	*
シーツ交換	3.4	3.55	n.p

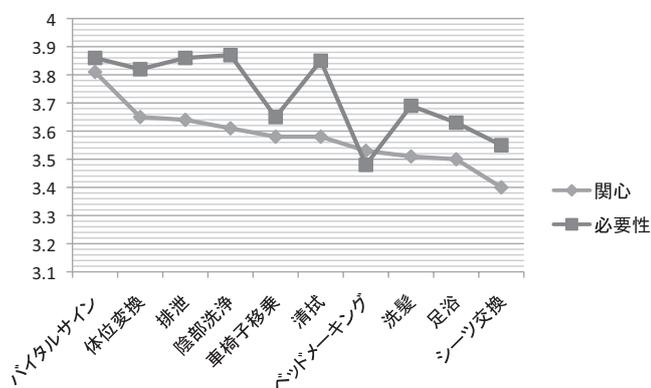
wilcoxonの符号付き順位検定 \*p<0.05 \*\*\*p<0.001

表4 必要性の度合い

(n=103)	
項目	平均値(SD)
陰部洗浄	3.87(0.41)
便器・尿器・オムツ	3.86(0.42)
バイタルサイン測定	3.86(0.44)
清拭	3.85(0.49)
体位変換	3.82(0.46)
洗髪	3.69(0.56)
車椅子移乗・移動	3.65(0.56)
足浴	3.63(0.64)
シーツ交換	3.55(0.67)
ベッドメイキング	3.48(0.68)

関心と必要の度合いの比較(図2, 表5)は, 偏りが無いことを確認し, 対応のある Wilcoxon 符号付き順位検定にて, 体位変換 (p < 0.001), 尿器・便器・オムツ交換 (p < 0.001), 陰部洗浄 (p < 0.001), 清拭 (p < 0.001), 洗髪 (p < 0.001), 足浴 (p < 0.05) で有意差を認めた。

図2 関心・必要性の度合い



### 3. 特に関心が高まった理由 (表6-1, 表6-2)

特に関心が高まった理由の自由記述は, 内容分類結果, 技術項目で示された内容 (58件) とそれ以外 (33件) に大別された。最も多かったのは VS 測定 (24件) で, 「もっと知識を得て, 正確に行えるようにしたい。対象の状態を示すものだからしっかりと知る必要がある。手早く実施できるようにしたい。」であった。ベッドメイキング (15件) は「きれいに寝心地良いベッドを作りたい。皺が全くないベッドを作れると嬉しい」, 体位変換 (7件) は「どうしたら快適な生活になるか考えた。どの程度自分のできるかなど考えた。」, 清拭 (5件) は「気持ち良く清潔な状態を保つことが療養生活で第一となる。プライバシーの保護について考えるきっかけになった」, 陰部洗浄 (3件) は「感染予防のために大切だから。患者さんに嫌な思いをしないよう技術を磨きたい」であった。

それ以外では, 実習に出たら実施する (12件), 練習により上達が嬉しい (4件), 患者に負担をかけないで実施する (4件), 患者役をして気持ち良かった (3件), 今まで知らない発見があった (2件), 先生の援助をしている姿に憧れた (2件) などであった。

### 4. 特に必要性の高まった理由 (表7-1, 表7-2)

特に必要性の高まった理由の自由記述は, 内容分類結果, 技術項目で示された内容 (49件) とそれ以外 (33件) に大別された。記述項目で最も多かったのはバイタルサイン測定 (17件) で, 「患者の生命徴候のため正確に測定し, 対応を考える。身体内部の見えない変化を数値で知る」であった。次いで, 身体の清潔 (12件) は「清潔を維持することは重要で, 患者の気持ちを変化させる」, 陰部洗浄 (6件) は「抵抗のある援助である。感染しやすい部位で清潔保持が大切」, 便器・尿器・オムツ交換 (6件) は「一番

行う援助。正確な方法を身につけ感染を予防する」、体位変換（4件）は「褥瘡予防や気分転換になる。寝たきりの方には運動となる」であった。

それ以外では、毎日の生活に必要な援助（13件）「毎

日の生活に必要なこと。入院生活で必ず行う援助である」、病院で実施していた（12件）「実習で行われているところを見た」、看護師として求められる（5件）「看護師ができればならない技術」などであった。

表6-1 特に関心が高まった理由（技術項目別）

件数	記述内容	分類	
6	もっと知識を得て正確に行えるようになりたい（より正確な技術だから）	バイタルサイン (24件)	
5	対象の状態を示すものだからしっかり知る必要がある		
3	一番大切で手早く実施できるようになりたい		
3	一番難しかったからできるようになりたいと思った		
2	身近な人はどうなのかと思い、練習に付き合ってもらったりする事が多くなった		
2	看護師になったら絶対行うものだから、完璧にしたいと思った		
1	看護師に一步近づいたように感じた		
1	練習して上手くできるようになった		
4	きれいに寝心地の良いベッドを作りたい		ベッドメイキング (15件)
2	意外と楽しかった、面白かった		
2	自分のなりの工夫やコツを考えながら行った		
2	皺が全くないベッドを作れると嬉しい		
1	先生の実技を実際に見て感動したから		
1	褥瘡ができないようにするにはどうしたらよいか知りたくなった		
1	安全・安楽に過ごせるかは大切なため		
1	ベッドを作ることだけでも色々必要な意味がある事を知った		
1	練習するたびに1つ1つ課題が出てきた		
2	どの程度自分でできるかなど考え関心が高まった	体位変換（7件）	
1	どう体重移動したら良いのかすごく考えた		
1	どうしたら快適な生活になるか考えた		
1	家族の足が悪くなり、車椅子移乗、移送はとても関心を持てた		
1	今後役立つと思うし、便利だから		
1	一番覚える事が多くて難しかったから		
3	気持ち良く清潔な状態を保つことが療養生活で第一となる	清拭（5件）	
1	プライバシーの保護について、考えるきっかけになった		
1	気持ち良くなるようにできるようにになりたい		
3	毎日行い感染予防のために大切だから	陰部洗浄（4件）	
1	プライバシーに影響する。患者さんが嫌な思いをしないよう技術を磨きたい		
3	時間単位で必要となる。頻度が高い	排泄援助（3件）	
58	計		

表6-2 特に関心が高まった理由（その他）

件数	記述内容	記述内容
6	どれも実習や現場に出たら実施するものばかり	実習に出たら実施する (12件)
4	看護師になるために絶対必要な技術だと感じたから	
1	見学実習に行った際に、看護師が行っていた援助だったから	
1	実習でできないと恥ずかしい	
2	練習をしているうちに楽しくなった	練習により上達 が嬉しい（7件）
2	練習して難しく大変だったからできるようになって嬉しい	
1	練習を重ねていくうちに上手になるのが実際に目でわかるから	
1	上達していくのが嬉しいから	
1	自信がもてるようになったから	患者に負担を かけないで 実施する(4件)
2	下手だと患者さんに負担がかかるだろうと思ったから	
1	できなければ患者の命に関わると感じたから	
1	患者さんの事を考えてやるという事を演習で実感したから	気持ち良 かった(3件)
3	患者役をして気持ちいいと思えたから	
2	実際に行った際に、今まで知らなかった発見があった	発見があ った
2	先生の援助をしている姿に憧れたから	教員に憧 れた
2	講義で学び、演習もしているから、以前と比べるとどの技術も関心を持てた	演習に関 心持てた
33	計	

表7-1 特に必要性が高まった理由(技術項目別)

件数	記述内容	分類
6	患者の生命徴候のため正確に測定する	バイタルサイン (17件)
5	身体内部の見えない変化を数値で知るので適切にする	
4	毎日行うことなのでしっかり身につけたい	
2	測定結果で、動き(対策)がきまってくると感じた	
6	清潔を維持することは重要(不快感をなくす、感染予防、第一)	身体の清潔 (12件)
4	患者さんの気持ちに関係し変化させる	
1	当たり前に行えるようになりたい	
1	人間にとって基本的なこと	
2	プライバシーを考えると抵抗のある援助である	陰部洗浄 (6件)
2	感染しやすい部位で清潔を保つことが大切	
1	オムツ交換は実習時何度も見学した	
1	看護業務の中で一番多く援助する技術	
2	絶対今後一番多く行う援助	便器・尿器・オムツ交換 (6件)
2	正確な方法を身につけて感染を予防する。肌のドラブルをまねく	
1	普通は嫌がるものだが、看護師は必ずやらなくてははいけない	
1	看護に必要だし、自分で一番頑張りたい	
2	患者が1日過ごす場所	ベッドメイキング (4件)
2	患者さんがいる所を快適にしたい	
2	褥瘡予防や気分転換になる	体位変換(4件)
1	患者さんに負担をかけないように行う大切さ	
1	寝たきりの方、麻痺のある患者の運動となる	
49		

表7-2 特に必要性が高まった理由(その他)

件数	記述内容	記述内容
9	毎日の生活に必要な事	毎日の生活に必要な 援助(13件)
4	患者の入院生活で必ず行う援助である	
8	実習でやることになると思う	病院で実施していた (12件)
4	病院実習でよく行われていることを見た	
4	看護師ができればならない技術だと思う	看護師として 求められる(5件)
1	毎日行う。看護師の技術力が試される	
1	実際に演習して患者がどんな感じに援助されると良いかわかったから	気持ち良さを味わう (3件)
1	生活の快適さを大きく左右するため	
1	患者役をして気持ち良かったから	
33	計	

#### IV. 考察

##### 1. 基礎看護技術項目への関心・必要性の度合いの全体像

看護学生の基礎看護技術に対する関心・必要性の割合は、関心が高い6から7割程度、とても必要は8割程度が捉えていることが明らかになった。反面、3割から4割の学生は関心や必要性を感じないと回答しており、その存在に注目する必要がある。したがって、看護実践の基礎となる知識習得や、技術練習が看護技術の定着に重要であることを、意識化し実践できるように指導する必要性がある。

技術10項目のうち、VS測定、体位変換、便器・尿器・オムツ交換、陰部洗浄の4項目は関心・必要性の度

合ともに上位を示していた。また、体位変換、便器・尿器・オムツ交換、陰部洗浄では関心と必要性の度合いに有意差が認められ、必要性を高く捉えていることが明らかになった。他方、清拭、洗髪、足浴も有意差が認められたことから、それらの清潔援助が患者にとって必要であることは意識化でき、考えられていることが明らかになった。

##### 2. 関心の高まった理由

自由記述では、VS測定が最も多く、「もっと知識を得て、正確に行えるようにしたい。手早く実施できるようにになりたい。」、ベッドメイキングは「きれいに寝心地良いベッドを作りたい。皺が全くないベッドを作れると嬉しい」、体位変換は「どうしたら快適

な生活になるか、どの程度対象ができるかなど考えた。」、清拭は「プライバシーの保護について考えた、気持ち良くできるようにしたい」などに示されるように、できるようにしたいという目標を持ち、看護者の立場になり患者のことを考え行っていたことが繰り返し表現されていた。

そして、VS測定のためにベッドメイキングに関する記述数が多かったのは、学生が最初に体験する技術であり、上達が目に見えるため、達成感のある技術となっているのではないかと推察された。

以上より、関心を高める理由は、できるようにしたいという思いや、練習により上達していくことが嬉しいなどが原動力となっていると考えられた。患者役体験から対象に負担をかけないように気持ち良い援助を行うなど患者心理を考えることが影響していることが明かになった。

### 3. 必要性の高まった理由

特に必要性が高まった理由は、VS測定は患者の生命徴候を正確に測定し、状態を判断し行為へ繋げる重要性を意識化していた。陰部洗浄や排泄援助は抵抗を伴う援助であるが感染予防をふまえて正確な方法が求められ、清潔の援助は、清潔を維持することの重要性と、患者の気持ちを変化させる効果があるとして必要性を捉えていることが明らかになった。また、これらの技術の実践は看護師の役割であり、入院患者の毎日の生活に必要な援助であると、実際場面を見学している体験が影響していると考えられた。

### 4. 教育への示唆

本研究の結果から、6割から8割の学生は関心・必要性を高く感じているものの、4割の学生は低いことが明らかになった。伊藤ら<sup>8)</sup>は、看護学生は看護職になるという目的が明確であり、その目的を達成したいという自己実現の欲求は高いと考えると報告している。しかし、1年生は看護大学での学習方法に慣れていく段階にあり、準備状態が整っていない。したがって、講義・演習の方法も、内容により学習が深まるようにロールプレイングや事例を用いた演習、DVD活用、グループ討議、など取り入れているが、さらに現代学生の興味・関心を刺激する教材やしかけが必要となる。問題解決力、探求心、研究的態度を養うとされる実験や測定値の活用を導入した演習<sup>9)</sup>

<sup>10)</sup> や学生自身の動きを撮影した画像により確認・修正しながらトレーニングする方法<sup>11)</sup> 等も有効と考える。

生活援助論Ⅰ・Ⅱの進度は、8月末に基礎看護学実習Ⅰが入り、臨床現場で看護活動の実際を見学している。このことは、「どれも実習や現場にでたら実施するものばかり」であり、「看護師になるために絶対必要な技術だと感じた」に示されるように、学生が現場で状況的に学ぶという方法で教育を行うことの効果と裏付けられた。佐伯<sup>12)</sup>は専門職者の教育を行う看護においては、知識から応用、現場という教育方法で分けるのではなく、はじめから状況的に学ぶという方法で教育を行うことで学生が直感的に必要なことを、全体を捉えて学ぶようになるとしている。行動主義的に手順や根拠を教えるのではなく、学生が状況を見て、判断し、必要なことから動機付けられ学ぶべきことを発見し、練習をとおして、なぜそのように行うのかの根拠づけを丁寧に行うことが重要になると考える。したがって、見学実習での気づきや学び、例えば看護師-患者関係や、自分では動くことができない状況の患者にどのように援助を実施していたかなど、具体的な場面を想起させることや患者の状況設定を意図的に取り入れた学習方法を活用していくことが必要になる。

看護学生の1年生は大学での学習方法を獲得していくという段階にある。自分の生活を調整し、時間管理をしながら自主的な取り組みが期待される。本研究から得られた、患者に負担をかけないでできるようにしたい、練習して上達が嬉しいという達成感、学生の行動を促進する。すなわち、目的を達成したいという自己実現の欲求は高いと考えられる。研究対象となった学生のできるようになりたいという達成動機や学習意欲を信じ、多様な学生個々の学習を支援できるように、学生を承認し、励ましながら自己学習を促進していくことが大切になることが再確認できた。

今後は、あまり関心がない、あまり必要でないという学生はどのようなことを感じ考えているのかを明らかにし、検討していくことが課題となる。

## V. 結論

本研究は、看護学生が考える基礎看護技術10項目への関心・必要性の度合いとその理由を明らかにし、

看護技術教育への示唆を得ることを目的とした。その結果、以下のことが明かになった。

1. 6から8割の学生は関心が高く、概ね8割程度の学生は必要性を感じていた。
  2. 基礎看護技術の関心の度合いは、VS測定、体位変換、便器・尿器・オムツ交換で高かった。必要性の度合いは、陰部洗浄、便器・尿器・オムツ交換、VS測定の順で高かった。関心と必要の度合いの比較では、体位変換、尿器・便器・オムツ交換、陰部洗浄、清拭、洗髪、足浴で有意差を認めた。
  3. 特に関心を高めた理由は、できるようになりたいという思いと上達の嬉しさ、実習で実施する技術であるなどが原動力となっていた。一方、必要性が高まった理由は、患者の状態判断や他者への遠慮、抵抗を伴う援助であった。生活に必要な援助であること、実習で実際場面を見学したことも学生が必要性を捉えることに大きく影響していた。
  4. 学生の達成動機や学習意欲を促進する教育方法を検討し、学生個々の学習を支援することが必要になることが示唆された。
- 7) 新村出編：広辞苑第6版、必要性の項、2367、2008.
  - 8) 伊藤綾子，駿河絵理子，藤井美和：基礎看護技術の主体的な学習法に対する学生の反応－看護技術の演習方法の変化と技術習得過程における動機付けとの関連－，東京医療保健大学紀要，(1)，2008.
  - 9) 田代マツ子：浣腸液の加温と至適温度に関する安全性，基礎看護技術「排泄」における実験演習を通して，大阪医科大学附属看護専門学校紀要，14：1-7，2008.
  - 10) 奥山真由美，肥後すみ子：実験を導入した基礎看護技術演習の学習と構造化，岡山県立大学保健福祉学部紀要，16：21—30，2010.
  - 11) 中村昌子：iPad miniを用いた看護技術練習とその効果の検討，東都医療大学紀要4 (1)，1-7，2014.
  - 12) 佐伯胖，前川幸子：看護教育への警鐘，看護教育，49 (5)，388-394，2008.

受理日：2015年1月26日

## 謝辞

本研究に協力いただいた学生の皆様に感謝いたします。

## 文献

- 1) 厚生労働省医政局看護課：看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書2003.
- 2) 鶴田晴美，村上弘之，根岸京子他：基礎看護学実習における看護技術経験の実態，東都医療大学紀要，3 (1)，40 - 47，2013.
- 3) 浅井和美：基礎看護技術教育に関する現状と課題，－2004年から2010年に発表された基礎看護技術教育研究の分析－，Yamanashi Nursing Journal vol9 (2)，2011.
- 4) 野村春香，平瀬節子，坂本雅代他：基礎看護技術習得に向けた自己学習への取り組みの実態，高知大学看護学雑誌，3 (1)，45 - 49，2009.
- 5) 野村春香，岡田久子，平瀬節子他：看護学生の基礎看護技術への関心と必要性および身につけたい度合いと自己学習への取り組みとの関係，高知大学看護学雑誌，595 - 64，2011.
- 6) 新村出編：広辞苑第6版，関心の頁，634，2008.